

実績報告書作成上の注意（処分業）

- 1 平成31年4月1日から令和2年3月31日までの処理実績を記入してください。
- 2 実績報告書記入に当たっては、**千葉市内にある施設の実績のみ**記入してください。
- 3 次の廃棄物については、本報告対象外となります。
 - ・自らが排出事業者となる廃棄物
 - ・一般廃棄物
- 4 取扱量の単位は、必ずトン（t）で記入計上してください。取扱量立方メートル（m³）、リットル（ℓ）等で把握している場合には、比重等を勘案してトン（t）に換算した数量を記入してください。
- 5 実績の記入用紙にあっては、不足等が生じた場合、必要に応じ複写して報告願います。
なお、当該期間に処分実績がない場合にも「実績なし」と様式第31号の余白に記入して必ず提出してください。
- 6 様式第31号（裏面）「産業廃棄物の処理施設における処分実績報告書」についても記入して必ず提出してください。
- 7 提出部数は1部ですが、控えを事業所に保管してください。（記載内容について、問い合わせをする場合があります。）
- 8 記入方法の詳細は、次ページの記入例を参考にしてください。

- ① 報告者の住所、氏名又は名称、電話番号、メールアドレス、担当者名
- ② 直近の千葉市の産業廃棄物処分量の許可年月日（変更の許可は除く）
- ③ 千葉市の産業廃棄物処分量の許可番号
- ④ 処分した産業廃棄物の種類について、コード番号表の該当する産業廃棄物のコード番号（建築混合廃棄物や管理型混合廃棄物等の混合廃棄物は主たる産業廃棄物の種類）
- ⑤ 委託者（排出事業者）の氏名又は名称
- ⑥ 産業廃棄物の発生場所の住所（排出事業場の住所）について、コード番号表の区市等コード番号表から該当する区市等のコード番号
- ⑦ 産業廃棄物の受託量（t単位）※1
- ⑧ 処分方法について、コード番号表の該当する処分方法のコード番号
- ⑨ 処理施設について、コード番号表の該当する施設の種類のコード番号
- ⑩ 産業廃棄物の処分量（t単位）※1
- ⑪ 処分後に発生する産業廃棄物（以下「残さ物等」という）がある場合は、その量（t単位）。すべて有価物となる場合は 0 と記入してください。
※1
- ⑫ 残さ物等の処分を委託した処分業者又は報告者からの再委託を受託した処分業者の許可番号
- ⑬ 残さ物等の処分を委託した処分業者又は報告者からの再委託を受託した処分業者の氏名又は名称
- ⑭ 残さ物等の処分を委託した処分業者又は報告者からの再委託を受託した処分業者の住所について、コード番号表の該当する区市のコード番号
- ⑮ 残さ物等の処分を委託した処分業者又は報告者からの再委託を受託した処分業者の処分方法について、コード番号表の該当する処分方法のコード番号
- ⑯ 残さ物等の委託量又は報告者が再委託をした場合はその委託量（t単位）※1
- ⑰ 備考欄には、残さ物等がある場合は、「残」、報告者が再委託をした場合は「再」を記入してください。

※1 小数点第三位を四捨五入し、小数点第二位まで記入してください。なお、小数点第三位の四捨五入により 0 となる場合は、0.00 と記入してください。

※2 委託者、処分する産業廃棄物の種類、発生場所、処分方法、残さ物等を処分する処分業者及び残さ物を処分する場所が同じデータで複数ある場合は、記入例のようにデータを一つにまとめてください。（例1と例2はいずれも同一なので、例3のように一つに取りまとめて記入）

（中間処理業・最終処分業用）

- ① 産業廃棄物処理施設の名称（許可証に記載されているものを参考にしてください）
- ② 処理施設について、コード番号表の該当する施設の種類のコード番号
- ③ 処分した産業廃棄物の種類と、処理施設の種類ごとの処分量（t単位）※1
- ④ 残さ物等の種類
- ⑤ 残さ物等について、コード番号表の該当する産業廃棄物のコード番号
- ⑥ 残さ物等の排出量（t単位）※1
- ⑦ 残さ物等の処分方法について、コード番号表の該当する処分方法のコード番号
- ⑧ 残さ物等を処分した場所について、コード番号表の該当する県市のコード番号
- ⑨ 処分した残さ物等の量（t単位）※1

※1 小数点第三位を四捨五入し、小数点第二位まで記入してください。なお、小数点第三位の四捨五入により 0 となる場合は、0.00 と記入してください。